



耕作図屏風 双 筆者未詳

耕作図屏風壺双 筆者未詳

原 田 太 一

此屏風の右半双は春の花咲く頃から田の草取りと、夏迄の推移を現わし、左半双は秋の紅葉の頃から稲の取入れの模様、枯田を渡る雁行と耕作を中心によく四季の風物を描いて余す所がない。筆法は狩野派でも常信系統のものと考えられるのは松の描法、遠山の手法など大和絵風の温かな所があり、全図に溢れる温雅な感情より之を窺い知る事が出来る。時代は江戸末期、文化、文政のものと思われるが、特に此図に於て強調したいのは、右半双に於て河川に釣する武士を描いている点、及び鮎をとる人物と、そのごりの取方は特に当地方（金沢市附近）に於て見られる漁方であるし、又左半双の渡舟を描いている点、などから或は犀、麻両川の風趣を描いたのでもなかろうかと考えられる事である。

（注、昔は犀川に渡舟があり、又各地の名物を紹介せる古誌には浅の川のごりと出ている）

又かかる大作であり乍ら無落款である点から藩主の命によりお抱え絵師が描いたのでもなかろうかと推察される。かく考えてくると加賀狩野とも云い得ようし、何れにしても狩野の一派を示し、風趣豊かな作品として一考の価値ありと思ひ、ここに紹介することにした。



